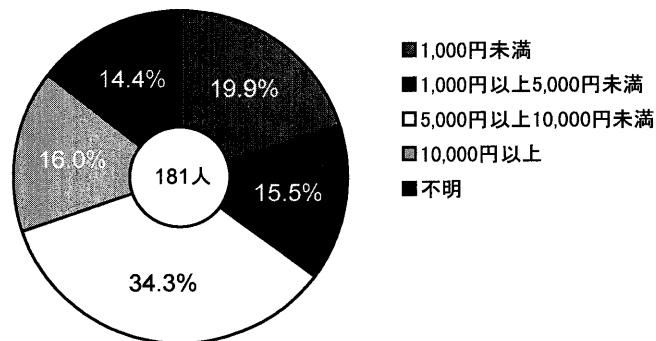


③ ボランティアの自己負担

アンケート結果からみたボランティアの年間自己負担金は、「5,000円以上10,000円未満」が34.3%と最も多く、「1,000円未満」が19.0%と次に続く。

- 若年層が中心の「春日市ふれあい文化センター」では、42.9%が「1,000円未満」と回答しており、自己負担の少ない事例といえる。一方、同じ青少年対象の「大阪府立青少年会館・プラネットステーション」では「1,000円以上5,000円未満」(25.0%)、「5,000円以上10,000円未満」(37.5%)が多数を占めている。
- 「武生国際音楽祭」では、「5,000円以上10,000円未満」が38.7%、「10,000円以上」が25.8%となっており、高額負担者が最も多い。「同推進会議」のうち、特に理事の重要な役割は資金調達で、自ら年間20万～50万円を拠出している人も珍しくない。「理事の最大の責任は赤字の負担。年会費の他に、アーティストや関係者の接待、チケットの販売、協賛金集め(広告10万円/1ページ)を行ない、自らも協賛金を出す」という活動で、費用負担もさることながら、それに要する時間も相当なものであろう。

■ 図表 I-16 ボランティアの自己負担金



④ 満足度

ボランティア活動に対する満足度を「ボランティア活動をして良かったと感じる点」の設問で聞いた結果が、下記のグラフである。

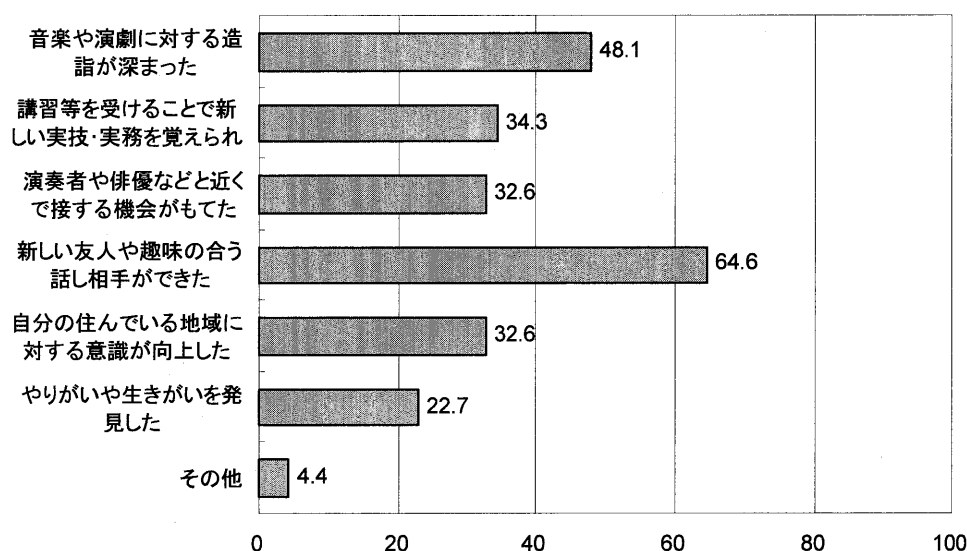
全体の64.6%が「新しい友人や趣味のあう話し相手ができる」ことを良かった点にあげている。活動を始める時点では、「音楽や演劇が好きだから」あるいは「劇場・ホールの仕事に興味を持って」が主な動機だったが、実際に活動をはじめた時点では、関心事を同じくする友人・知人との出会いが満足感・充足感を感じる大きな要因になっている。

インタビュー調査でも、それまでの経験や年齢、職場環境などが全く異なる新しい人との出会いを「満足している」としている人は多く、企画・制作系のボランティアでは、「これまで個人でしてきた活動の範囲が広がった」、「この活動をしていなか

I. 公共ホール・劇場におけるボランティアの導入状況と実態

ったら、出会っていない人、やっていないことは仕事の何十倍もある」あるいは「“やればできる”と思えるようになったし、ネットワークの重要さも学んだ。自分個人では全く不可能なことが、その組織では可能になるのは素晴らしい」などの意見が聞かれた。

■ 図表 1-17 ボランティア活動をして良かったと感じている点(〇は3つまで)



同じように、「音楽や演劇に対する造詣が深まった」点を評価している人も48.1%いる。「プラネット・ステーション」のように、音楽・演劇以外の分野の活動も行っているケースでは、「芝居がしたいと思って来たが、美術や音楽など他の分野に関する知識も得るようになり、興味をもつ範囲が広がって面白くなった」という感想も聞かれた。

また、ウラ方系のボランティアをしているところでは、「実技・実務を覚えられた」点が評価されており、全体で34.3%という数字が出ている。ウラ方に特化している「舞台研究会(喜多方プラザ文化センター)」では62.5%、「ステージオペレータークラブ(たんば田園交響ホール)」では51.4%が、技術的向上を良かった点にあげている。

(3) ボランティア運営における課題

最後に、ボランティアの運営における問題点や課題を整理してみたい。

① 劇場・ホール側からみた問題点・課題

● ボランティアの位置づけとメンバーの意識

- ・ボランティア参加者の“意識”が必ずしも統一されていない面があり、プロフェッショナルとアマチュアの間領域に位置している。ウラ方業務のように危険